

平成28年度 行政評価事業別シート

	実計対象	<input type="checkbox"/>	評価対象	<input checked="" type="checkbox"/>	新規	<input type="checkbox"/>	完了事業	<input type="checkbox"/>	ゼロ予算事業	<input type="checkbox"/>	担当者	牧 宏
	全体計画						経費区分		経常的経費		内線	3326
事務事業名	4087 高齢者自立支援事業											
所 属	100300 健康福祉部・高齢者福祉課											
施 策	01020400 高齢者福祉の充実											
予算科目	会計	01 一般会計										
	科目	030103 民生費・社会福祉費・高齢者対策費										
	事業	020000 高齢者自立支援事業										
事業目的						事業概要・効果						
高齢者が在宅で安心して生活できる支援と生きがい活動の支援。						高齢者を地域で見守り、安心して生活するための事業。また、家に閉じこもりがちな高齢者及び虚弱な高齢者に対し、仲間づくり等を通じて要介護状態への進行の防止を図る。						

PLAN-DO

年度実績及び予定

平成27年度 実績	平成28年度 予定
ハッピーエンド計画の取り組みとして、エンディングノートを作成し中央公民館と連携して活用講座を開催した。 地域の見守りを「見守り支援事業協力隊」の協力を得て行った。	生活指導、健康相談等を通して、ひとり暮らし高齢者等の健康づくりを増進する。 ハッピーエンド計画の取り組みとして、中央公民館と連携してエンディングノート活用講座を開催する。
平成29年度 予定	平成30年度 予定
平成31年度 予定	平成32年度 予定

指標名	すぎかマイ・ノート活用講座累積参加者数				
算式					単位 人
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
目標値	目標	1,400			
	実績				
指標選定の理由	自立を考える高齢者の数として				
最終年度 目標の根拠	第七次須坂市老人福祉計画(平成27～29年度)				
指標名	見守り支援事業協力隊参加事業者数				
算式					単位 事業所
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
目標値	目標	18			
	実績				
指標選定の理由	高齢者を見守る施策のひとつとして数値化できるものである				
最終年度 目標の根拠	第七次須坂市老人福祉計画(平成27～29年度)				
指標名					
算式					単位
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
目標値	目標				
	実績				
指標選定の理由					
最終年度 目標の根拠					

事業費

(単位：千円)

		平成27年度 決 算	平成28年度 予 算
事業費		16,137	10,866
特定 財源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	0	0
	地方債	0	0
	その他	2,449	5,048
一般財源	13,688	5,818	
人員数 (人)	正規職員	0.5	0.3
	嘱託職員	0.0	0.2
	臨時職員	0.0	0.0
人員 コスト	正規職員	3,604.0	2,162.4
	嘱託職員	0.0	541.0
	臨時職員	0.0	0.0
	計	3,604.0	2,703.4
市民一人当たりの経費	0.4	0.3	
総額	19,741.0	13,569.4	

(単位：千円)

平成27年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	2,049	講師謝礼・後期高齢者健康増進実践者賞賜金
11節 需用費	482	消耗品費・印刷製本費・賄材料費
13節 委託費	11,773	生きがい活動支援通所事業委託料・生活管理指導短期宿泊事業委託料・後期高齢者健康増進事業委託料
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	0	
その他	1,833	臨時職員賃金等

(単位：千円)

平成28年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	2,448	講師謝礼・後期高齢者健康増進実践者賞賜金
11節 需用費	0	
13節 委託費	7,458	生活管理指導短期宿泊事業委託料・マグネットシート等作成委託料等・後期高齢者健康増進事業委託料・自立生活特別支援事業委託料
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	0	
その他	960	借上等

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか 行政内部の管理運営上必要な事業であるか 市が主体となり実施すべき事業か 法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか 目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか 	高い
評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> ひとり暮らし高齢者等の健康づくり及び、要介護状態への進行の防止を図ることができる。 人生の最後のステージを自分らしく迎え、安心して生きがいを持って暮らせることができる。 地域の見守りに、民間事業者による「見守り支援事業協力隊」の協力を得ている。 	
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 事業の成果は上がっているか 目標に対する達成度は十分か 市民生活上の課題解決に貢献しているか 行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか 事業の目的が達成できるような事業内容になっているか 	有効
評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> ひとり暮らし高齢者等の心身の健康づくりと介護予防につながる。 エンディングノートを活用することにより、自分に万が一のことが起きた時に、家族や親族に自分の希望を伝えること等ができる。 安否確認、孤立死の防止に「見守り支援事業協力隊」の協力を得ている。 	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか 効率性向上に努めているか 使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか 	やや向上
評価コメント	平成28年度から介護保険制度の改正により、生きがい活動支援通所事業が一般会計から介護保険特別会計へ移行した。	

振り返り（決算年度の取組み課題）

<ul style="list-style-type: none"> エンディングノート（自分の人生を振り返り、思い出や希望、残された人生で何をしたいのか等をまとめるためのノート）「すぎかマイ・ノート」を作成し、中央公民館と連携して活用講座を3回開催した。 「見守り支援事業協力隊」に（株）セブン-イレブン・ジャパンが加入した。

ACTION

1次評価

2次評価

次年度以降の方向性	進め方の改善（縮小）	次年度以降の方向性	進め方の改善（縮小）
総合評価コメント		2次評価コメント	
介護保険制度の総合事業に移行し実施できるものは、総合事業として実施し、高齢者の自立に必要な事業を進める。		総合事業と整合を図り進める。	

外部評価

次年度以降の方向性	
外部評価コメント	